

志木ロータリークラブ

2025-26年度 国際ロータリー 会長 フランチェスコ・アレツツォ 「UNITE FOR GOOD」
2025-26年度 第2570地区 ガバナー 坂口 孝 「よいことのために手を取りあおう」
2025-26年度 志木ロータリークラブ 会長 金剛光裕 「前進」

第2444回 例会

2025-11-5

第2443回移動例会 10月26日(日)の志木市・親と子の市内まるごとクリーン作戦 Part.2～川辺の清掃～は、悪天候により中止となりました

- ◎司 会 吉原 正 副会長
- ◎点 鐘 金剛 光裕 会 長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 林 康雄 副SAA
- ◎四つのテスト 林 康雄 副SAA
- ◎ゲスト 萩原 健介様（関東地方整備局・荒川上流河川事務所 所長）



トもかたづけていかなければなりませんね。

さて、本年度の年度計画書の大畑ガバナー補佐メッセージに次のようなお言葉が紹介されていました。2025 国際協議会でのジョン・ヒューコ国際ロータリー事務総長兼最高経営責任者のスピーチです。「伝統は重要です。しかし私たちが伝統を包摂しているのであり、伝統が私たちを包摂しているのではありません。」

さて皆さん、このメッセージをどうとらえますか。このメッセージは「伝統は大事だけどそれに縛られるなよ」と私にはとれました。

いかがでしょうか。この事務総長はウクライナ出身で、西洋各国で活躍されています。

まあ、さもありなんという気がします。相も変わらず、国際ロータリーでは、DEI やSDGs が幅をきかせています。

私共の日本という国はとても特異な国で、王朝が一度も断絶することなく、実質の建国を古墳時代として考えても、1500 年以上の長

「黙祷」



原孝一元会員のご冥福をお祈りして黙祷

「会長挨拶」

会長 金剛光裕

皆様こんにちは。会長の金剛です。よろしくお願ひ致します。

11 月となりました。本年も残すところ、あと 2 か月です。どんどんせわしなくなります。が、あせらずに一つ一つ、仕事もプライベート

きにわたり天皇家が続いております。神武天皇から数えると 2000 年以上です。次がデンマーク王室で 1089 年、イギリスの王室は 959 年、フランスはフランス革命が 1789 年 7 月 14 日で独立記念日パリ祭とよばれ王朝が途絶え新しい王朝となりました。パリオリンピックのグロテスクな開会式を思い出して下さい。あのようなことを平気でする国です。アメリカは王室がなく来年でようやく建国 250 年、中国に至ってはしゅっちゅう易姓革命が行われ王朝が交代し、国としての成り立ちは毛沢東の文化大革命で文化財の大規模な破壊や数百万人にも及ぶ大虐殺が行われ、1949 年に中華人民共和国が成立しました。中国 3000 年の歴史といいながらも建国 76 年です。

今申し上げたように、各国とは違い、国民が血のにじむような努力を重ね、この日本という国を守ってきました。伝統を大事にするのは当然で、それを踏まえて上での議論がなされないといけません。うわべだけの平等ではなく、自然や地球に対して傲慢であっては いけません。地球温暖化など、イデオロギーや銭金にまみれた思想ではなく、人間は自然の一部であるという考えは日本人固有の考え方ではあるかもしれませんが、この考え方を国際ロータリーに広げていくのが日本の立場だと思います。人間が地球環境をどうにかできるなどという事はおこがましいと知るべきです。

伝統に裏打ちされた考えこそが真実と知るべきです。例えば伝統仏教は数百年、或いは千年以上の風雪に耐えてきました。明治以降の新宗教とは違って、年数の重みがあります。この基盤に我々があると知るべきです。

今回は堅い話をしてしまいました。最後に私ことですが、先日長女が結婚いたしましたことをご報告します。子供には何にもしてやれなかった後悔がありますが、これからは精一杯サポートしていきたいと思っております。

本日から新入会員が 2 名入ります。皆様よろしくご指導お願い致します。

「入会式」



長島啓真・山形碧新会員の入会式

「理事会報告」(11/5 分) 会長 金剛光裕

1. 入会式の件 (長島啓真、山形碧)
報告⇒本日例会にて執り行う。
2. 11/13(木)移動例会 靖国神社参拝及び遊就館見学の件
⇒参加者の確認
3. 11/19(水)例会の件
クラブ細則の変更について、理事の意見を求める。11/6(木)より各会員に通知し、次回例会で協議する。
4. 12/3(水)例会の件
卓話を清水和之会員にお願いする
5. 12/10(水)例会の件
年次総会・クラブ協議会
6. 12/16(火)年忘れ例会 (池袋・月亭) ⇒宮原克平会員による新会員のオリエンテーションの件
詳細は親睦委員会より後日報告する
7. 1/15(木)新年会 (ベルセゾン) の件
⇒小諸 RC 来会。
8. その他 原孝一元会員葬儀の件
供花及び香典料¥10,000 を拠出。

「幹事報告」

幹事 塩野 章

1. 国際ロータリー日本事務局より 3 件受信
①11 月の為替レート \$1=¥154
②新「学習トピック」の案内&クラブ細則等共有案内
③ロータリー財団月間リソース案内
2. 地区事務所より 2 件受信

出席は会員の義務です。メイクアップを忘れずに！

第2グループ各RC 例会日・会場一覧(順不同)

■朝霞RC 毎週(火) 12:30~ 埼玉りそな銀行朝霞支店

事務局 048-466-3770

■新座RC 毎週(木) 12:30~ ベルセゾン

事務局 048-473-7041

①ロータリー財団「海外派遣」奨学生募集案内

②第 2570 地区ポリオデーの報告

3. バギオだより 2025 年 11 月号 Vol. 111

「今月の誕生日祝」 親睦活動委員 木下哲男



8 日 小泉市朗会員 12 日 宮原克平会員

「誕生日スピーチ」 小泉市朗会員

本日は誕生日の月ということで宮原先輩と 2 人、50 人の割には 2 人って少ない。優秀な人だけ。本日はありがとうございました。(談)

「委員会報告」

●地区ロータリー財団

地区ロータリー財団委員会奨学学友
平和フェロー委員会副委員長 遠藤貴博

先日 11 月 2 日スリーデーマーチポリオ撲滅運動が東松山で行われました。志木からは 11 名参加頂き、皆様晴天の中、軽快に完歩されました。ありがとうございました。

●地区ロータリー希望の風奨学金委員会

地区ロータリー希望の風奨学金委員 西川和人

今月もお手元に「風の便り」をご案内させていただいております。

もう一点、過日 9 月 29 日に十文字学園大学の方で講演を行い、誠に恐れ入ることですが謝礼を頂戴しました。クラブの方に振り込めますが、恐れ入りますが希望の風奨学金の方へ入れさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

●職業奉仕委員会

委員長 林 康雄

靖国神社正式参拝例会のご案内

11 月 13 日(木) 午後 2 時 45 分から靖国神社での正式参拝について

第 1 集合場所：13:00 志木駅・上り線ホーム
エレベーター付近

第 2 集合場所：14:20 靖国神社 第二鳥居
14:30 までに靖国神社「参集殿」に集合してください。

当日の服装：正式参拝になりますので、必ずジャケット等の上着および靴下の着用をお願いします。

参拝終了後は、靖国神社敷地内の「遊就館」の見学。

その後、飯田橋へ移動し、「ニクバルクオン本店」にて懇親会を予定しております。

●青少年奉仕委員会

委員長 宮原俊介

秋の非行・薬物乱用防止キャンペーン協力

志木市民まつりにおいて秋の非行・薬物乱用防止キャンペーンへの協力を実施します。

啓発用のティッシュを配布する予定です。

11 月 30 日(日) 12:30~13:30

集合時間：12:15 場所：旧村山快哉堂

「卓話者紹介」

星野博之会員



国土交通省には東北から九州まで全国で 8 つの局があり、関東地方整備局と言うのは全国でも一番大きい局です。

その中に 37 位事務所があり、今日お見えの荒川上流河川事務所の萩原所長さんは関東の中で一番若い所長さんです。

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■和光RC 毎週(月) 12:30~ うけら庵

■富士見RC 毎週(金) 12:30~ 島田ビル1F

第2グループ各RC 例会日・会場一覧(順不同)

事務局 048-455-0088

事務局 049-251-6596

2444-3◇

志木 RC 会報

「卓 話」

「荒川の治水の歴史と流域治水」

国土交通省 関東地方整備局・

荒川上流河川事務所 所長 萩原健介様



1. はじめに

荒川は、秩父山地の甲武信ヶ岳（標高 2,475m）に源を発し、埼玉県中央部の平野を流下しながら入間川等の支川を合わせ、隅田川を分派し東京湾に注いでおり、流域は東京都と埼玉県にまたがり、流域面積 2,940km²、幹川流路延長 173km、流域内人口は日本の人口の約 8%にあたる約 1,020 万人で、日本の政治・経済の中核を支える重要な一級河川です。

2. 荒川の治水の沿革

近世以前の荒川は、源流から埼玉県熊谷市付近までは現在と同様の川筋を流れていましたが、熊谷市付近からは、現在の流路とは異なり、大宮台地の東を流下し古利根川に合流し東京湾に注いでいました。扇状地となる熊谷市付近より下流でしばしば流路を変える「荒ぶる川」であったとされています。

治水対策としては、中流部では川島領及び吉見領の大囲堤に代表される囲堤等の築造、増強、水塚の上へ水屋の建築等が行われ、下流部の隅田川では、徳川家康が入府後、本格的に浅草付近の右岸側に日本堤、左岸側に隅田堤を漏斗状に築造することにより、洪水時には上流で氾濫させ、江戸の町を守ってきました。

その後、江戸時代の 1629（寛永 6）年に、徳川家康の命を受け、伊奈備前守忠治が荒川を利根川から分離する付け替え工事を始めました。この工事では、久下村地先（熊谷市）において元荒川の河道を締め切り、堤防を築くとともに新川を開削し、荒川の本流を当時入間川の支川であった和田吉野川の流路と合わせ、隅田川を経て東京湾に注ぐ流路に変えており、「荒川の西遷」と呼ばれ、現在の荒川の骨格が形成されました。これにより埼玉県東部の新田開発や荒川を利用した舟運が進み、舟運によって集まる物資により江戸は世界に誇る 100 万都市に成長します。

明治時代に入ると、近代国家を目指す明治政府は、これまでの各領地の利害に基づいて個別に行われていた治水事業を改め、重要な河川は国費で直轄事業を行う方針を打ち立てました。明治 40、43 年と続いた大洪水を契機に、明治政府は「臨時治水調査会」を設け、抜本的な治水計画にのり出します。荒川の近代的な治水の基礎を築いた「荒川改修計画」は荒川を上流部と下流部に分け、荒川下流部では、岩淵水門から下流に、隅田川（当時の荒川）と分派する約 21km の放水路を新たに開削することが決定し、大正 2 年から昭和 5 年まで 17 年の歳月をかけて荒川放水路（現在の荒川）の開削が行われました。

荒川上流部では、埼玉県議会議員であった斎藤祐美の尽力もあり、大正 9 年により工事を開始し、37 年の歳月をかけて昭和 29 年に完工しました。築堤や低水路整備、河道拡幅と併せ、広大な川幅を利用した横堤（堤防から河川敷に直角方向つき出した堤）の築造による遊水機能の確保を図っており、この工事で 27 箇所横堤が築造され、現在も 25 箇所が存在し、いまなお治水機能を発揮しています。

それ以降も昭和 22 年のカスリーン台風をはじめとする洪水にたびたび見舞われたこと

などから、上流ダム群に加えて、中流部の広大な高水敷を活用した調節池を治水計画に位置付け、昭和 36 年には二瀬ダム、平成 11 年には浦山ダム、平成 16 年には荒川第一調節池、平成 23 年には滝沢ダムが完成しています。令和元年東日本台風では、荒川第一調節池において既往最大の約 3,500 万 m³（洪水調節容量は約 3,900 万 m³）を貯留し、岩淵地点（東京都北区）で約 30～40cm 水位が低下したものと推定され、治水機能を発揮しました。

3. 気候変動の影響と流域治水への転換

令和元年東日本台風では、荒川流域において記録的な大雨を観測し、越辺川、都幾川の国管理区間 5 か所で堤防が決壊するなど、甚大な被害が発生しました。今後も気候変動の影響により、水害のさらなる頻発・激甚化が懸念されており、現在、パリ協定に基づき産業革命前と比べて世界の平均気温の上昇を 2℃に抑えることを目標として、温室効果ガスの排出抑制策が世界的に進められていますが、仮に 2℃の気温上昇に抑えられたとしても、2040 年頃には全国の一級水系の治水計画で目標とする降雨量は全国平均で約 1.1 倍、河川の流量は約 1.2 倍、洪水の発生頻度は約 2 倍になると試算されています。現行の治水対策が完了しても、河川整備計画の目標とする治水安全度が目減りしてしまうこととなります。

この気候変動のスピードに負けないよう、河川管理者が主体となっていく河川整備等の事前防災対策を加速化させることに加え、流域自治体・企業・地域住民等のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換を推進し、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策について、『流域治水プロジェクト（令和 3 年 3 月公表、令和 7 年 6 月更新版が最新

（R7.11.5 時点）』としてとりまとめ、流域関係者が連携して、ハード・ソフト一体となって取組を進めております。

4. 荒川流域の抜本的な治水対策（荒川第二・三調節池）

本紙では、流域治水の取組の中でも河川管理者が行う抜本的な対策として、広い高水敷を活用した荒川第二・三調節池整備をご紹介します。その面積は約 760ha、洪水調節容量は約 5100 万 m³（第二：約 3,800 万 m³、第三：約 1,300 万 m³）という大規模なものです。

調節池は、荒川左岸の広い高水敷に整備することとしており、このため河川内に、新たに「囲ぎよう堤」と呼ばれる堤防を整備します。このほか、荒川本川の洪水の一部を調節池内に取り込むための「越流堤」や、第二調節池と第三調節池を仕切るための「仕切堤」等の堤防も整備することとしており、新たに整備する囲ぎよう堤（排水門、越流堤含む）の総延長は約 11km、使用する土量は約 450 万 m³（東京ドーム約 4 杯分）にも及びます。このほか、調節池内の水を速やかに排水するための池内水路、排水門を整備します。

これらの施設整備により、本川の水位が大きく上昇した際、洪水を調節池に取り込むことにより、更なる本川の水位上昇を抑制し、下流の洪水被害の発生防止あるいはリスクを低減することができます。

昨今の豪雨災害を踏まえ、本調節池の早期完成を望む声は日に日に高まっています。これらの声を勘案して、荒川第二・三調節池事業の完成はまだ先ですが、少しでも早く洪水調節効果を発現させるべく令和 8 年度に段階的に一部で洪水調節効果を発現できるよう整備を進めているところです。

5. おわりに

荒川の治水対策はまだまだ道半ばであるものの、気候変動の影響等により激甚化・頻発化する水災害から首都圏を守り、人々が安心

11月は「ロータリー財団月間」です

して暮らせるよう、流域関係者と連携して流域治水の取組を一層推進してまいります。

●出席報告	出席向上委員 小泉市朗
10月のメイクアップ 14名	10月の平均出席率 83.23%